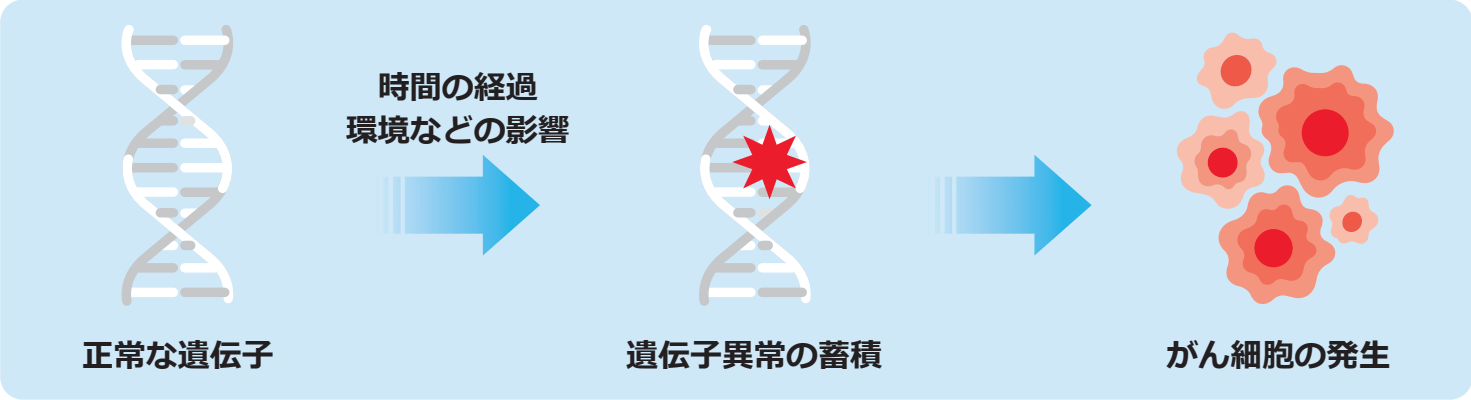
がん遺伝子パネル検査を受けられる方へ

監修：
神奈川県立がんセンター がんゲノム診療科 部長／がんゲノム診療センター長 廣島 幸彦 先生

GUARDANT™

がんの原因と薬による治療

ひとの正常な細胞は、生きていく過程で、遺伝子に傷がたまることにより、がん細胞へ変わっていきます。



抗がん剤の種類

従来の抗がん剤（化学療法剤）

- 副作用が強いことがある
- がんの種類を問わず使われる

分子標的薬（免疫チェックポイント阻害薬も含む）

がんの原因となる特定の分子を狙う薬

- 比較的新しいタイプの薬で新薬が増えている
- 検査結果により、副作用を上回る効果が期待できる
- 適応判断に遺伝子検査が必要になることが多い

分子標的薬と遺伝子検査

がんの遺伝子の特徴を調べると、
効果が期待できる薬を選ぶ
手がかりになることがあります

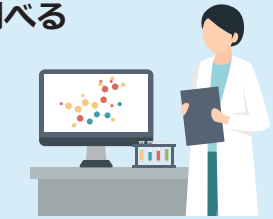


そのために必要なのが遺伝子検査で、2種類あります

☑ 特定の薬を使えるかを調べるために、
通常1つの遺伝子の異常のみを調べる
「コンパニオン診断」



☑ できるだけ多くの遺伝子の異常を調べる
「遺伝子パネル検査」



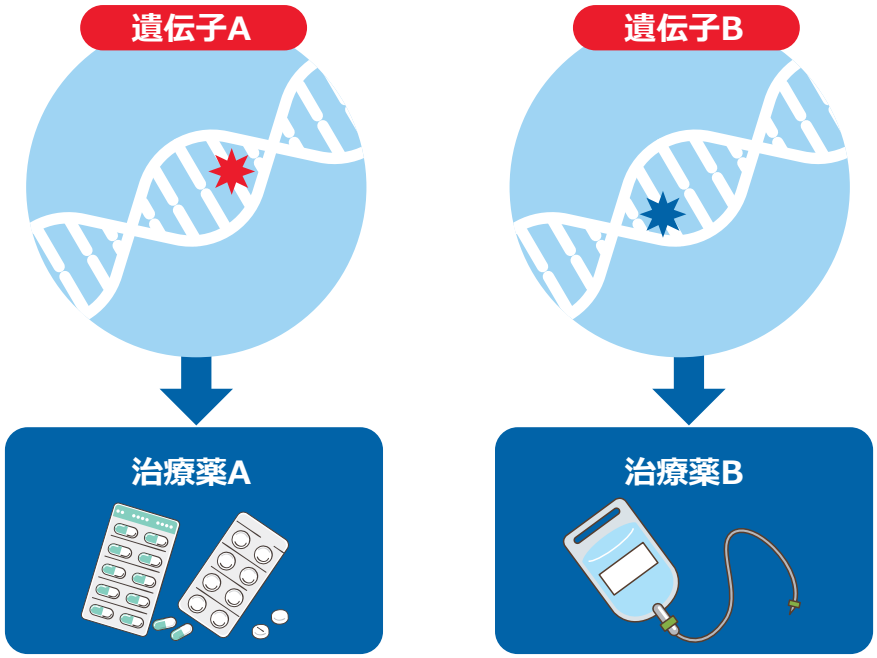
**あなたのがんに対して、より効果を期待できる可能性のある治療を選ぶために、
多くの場合で遺伝子検査が必要となります。**

がん遺伝子パネル検査による薬の治療

がん遺伝子パネル検査を行うことにより、遺伝子の異常に応じた治療選択肢が見つかる可能性があります。

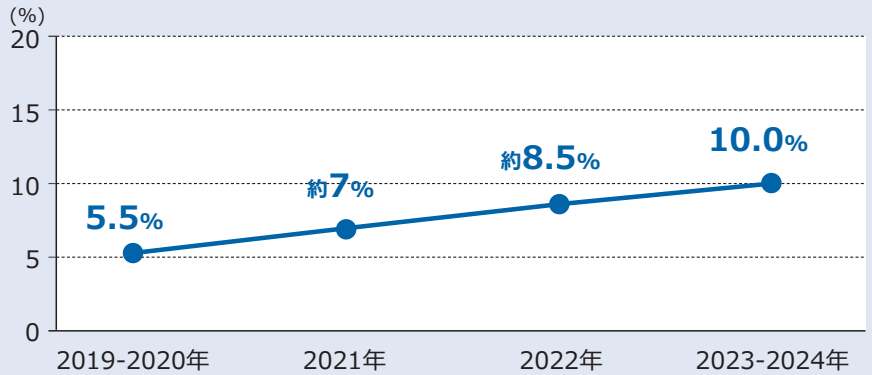
治療選択肢には、

- **あなたのがんに対して承認されている薬**
- **あなたのがんとは別のがんに対して承認されている薬**
- **治験（新しい薬の開発のための試験）があります**



治療が見つかる割合は10%程度と言われており、
年々上昇傾向にあります

CGPを契機とした治療到達率の推移*



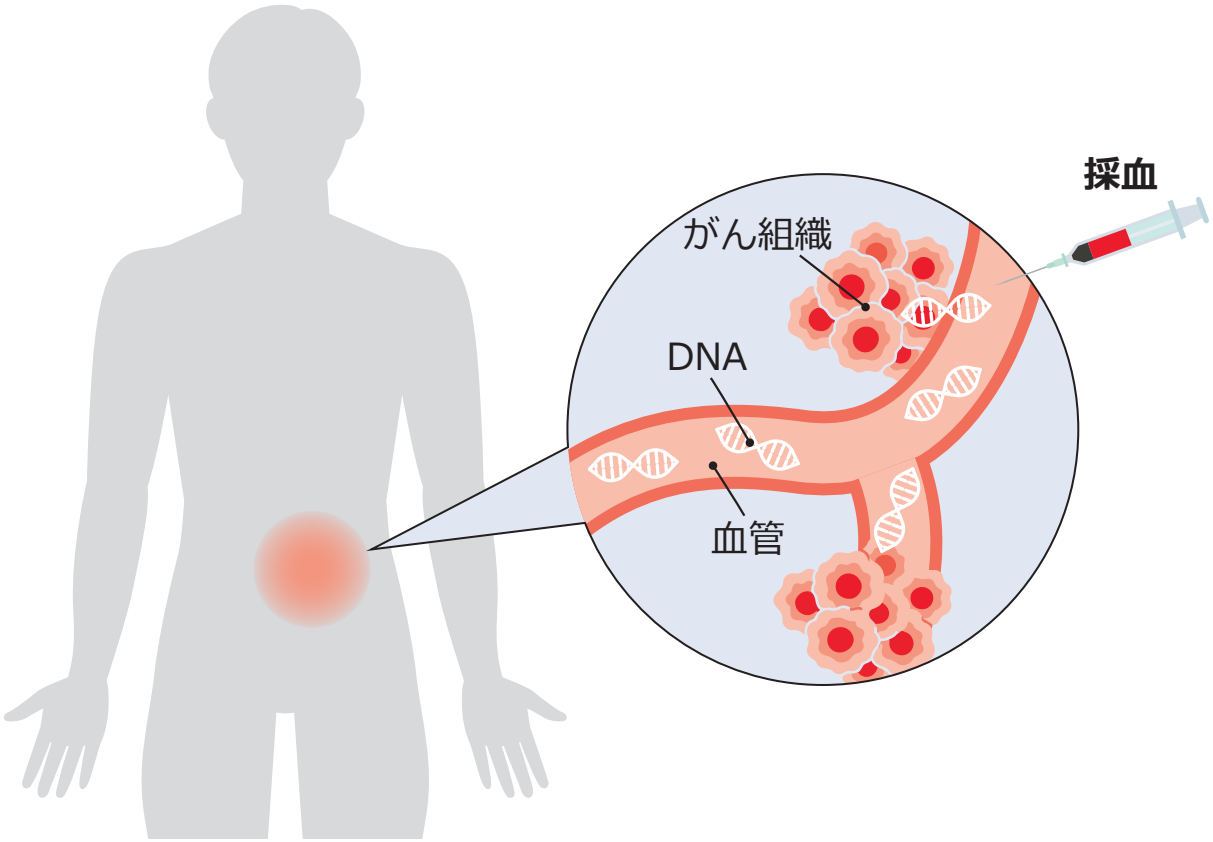
＊CGP（包括的ゲノムプロファイリング検査）を実施した患者のうち、
CGPを契機として新たなゲノムマッチ治療（臨床試験、適応外使用、承認薬）に到達した割合

治療到達率は、
年々上昇傾向にあります

Saito Y, et al. Nat Med. 2026;32:690–701. doi:10.1038/s41591-025-04086-8.

がん遺伝子パネル検査の種類

がん遺伝子パネル検査には、組織検体（採取したがん組織）を使う方法と、血液検体を使う方法があります。



組織検体を使用した検査

- GenMineTOP
  がんゲノムプロファイリングシステム
- OncoGuide NCC
  オンコパネル システム
- FoundationOne CDx
  がんゲノムプロファイル
- TruSight Oncology Comprehensive
  パネルシステム

血液検体を使用した検査

- Guardant360 CDx
  がん遺伝子パネル
- FoundationOne Liquid CDx
  がんゲノムプロファイル

組織検体と血液検体を使ったがん遺伝子パネル検査の違い

あなたのがんの状態や検体の違いを考慮して適切な選択をすることが重要です。

組織検体

利点

- 幅広い遺伝子の異常を網羅的に検出
- 遺伝子異常の検出感度が高い

限界

- がんの全体像をつかむために複数の部位のがん組織が必要な場合がある
- 侵襲的な手技が必要なことがある

血液検体

利点

- 最新のがんの遺伝子異常を把握できる
- がんの全体像をつかみやすい
- 侵襲性が低い

限界

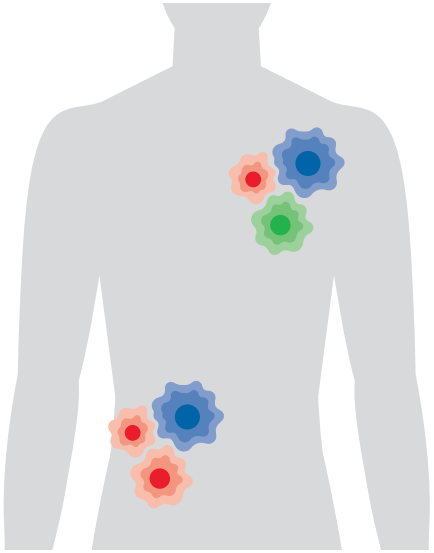
- 遺伝子異常の検出感度が低い場合がある
- 一部の遺伝子異常を調べることが比較的難しい

Kavan S, et al. Cancer Metastasis Rev. 2022;41(2):433–446. doi:10.1007/s10555-022-10023-9.

がんの特別な性質と適切な検査

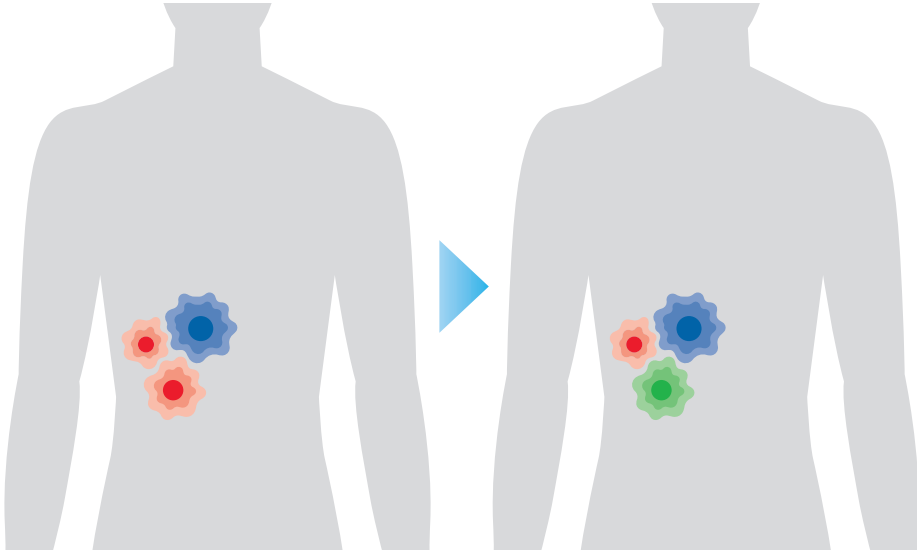
同じ患者さんのがんでも、場所や時間によってその性質が変わることがあります。
そのため、適切な種類の検査を適切なタイミングで行うことが大事です。

場所による性質の違い



がんの場所により
遺伝子異常の有無や種類が異なることがあり、
複数部位からの検体や血液検体での検査が
役に立つことがあります

時間経過による性質の違い



がんは**時間とともに**
遺伝子異常の種類が変わることがあり、
適切なタイミングでの検査や経時的な検査が
役に立つことがあります

血液検体が組織検体よりも優先される場合とは？

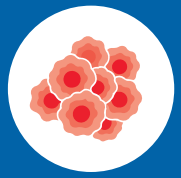
血液（血漿）を使った検査「血漿CGP」を、組織を使った検査「組織CGP」よりも優先する条件です。

血漿CGPを優先する場合



- **組織の採取が難しい場合**
- **組織検体に問題がある場合**　古い [3~5年以上経過]、腫瘍の割合が少ない、ホルマリン固定・脱灰処理 など
- **病変が複数あり、全体を反映しない可能性がある場合**
- **病態の進行が速く、早急な結果確認が必要な場合**

組織CGPを優先する場合



- **血漿での検出率が低いがん種・病態の場合**　脳腫瘍、膀胱がん、膵がん、大腸がんで肺転移のみ、腹膜播種のみ など
- **血漿検体で偽陰性になりやすい遺伝子異常が重要な場合**　NSCLCでの融合遺伝子やMET exon14 skipping など
- **造血幹細胞由来の遺伝子変異（CHIP）が影響する可能性がある場合**

医師が患者さんの病状や検体の状況を考慮して、最適な検査方法を選択します。



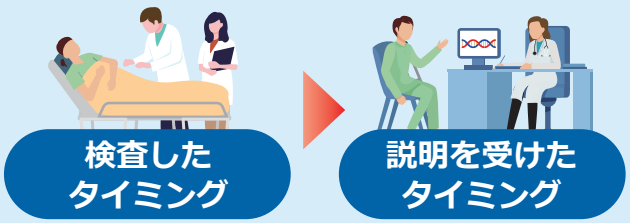
※本内容は日本臨床腫瘍学会・日本癌治療学会・日本癌学会 3学会合同ゲノムタスクフォースの政策提言（2021年1月20日）に基づく情報です。

がん遺伝子パネル検査に伴う高額療養費制度

- **がん遺伝子パネル検査の費用を含め、1か月の検査代や治療費が自己負担額の上限を超えた場合、あなたの年齢や収入に応じて、費用の払戻しを受けることができます。**
- **実際の負担額や手続きは、お勤め先の会社や病院の相談窓口でご確認ください。**

がん遺伝子パネル検査の費用について
検査時と結果の説明時に費用がかかります

2026年10月時点



	がんゲノム プロファイリング検査（CGP検査）	がんゲノム プロファイリング 評価提供料
	44,000点	12,000点
	44万円	12万円
3割負担	13万2千円	3万6千円

知っておきたいポイント

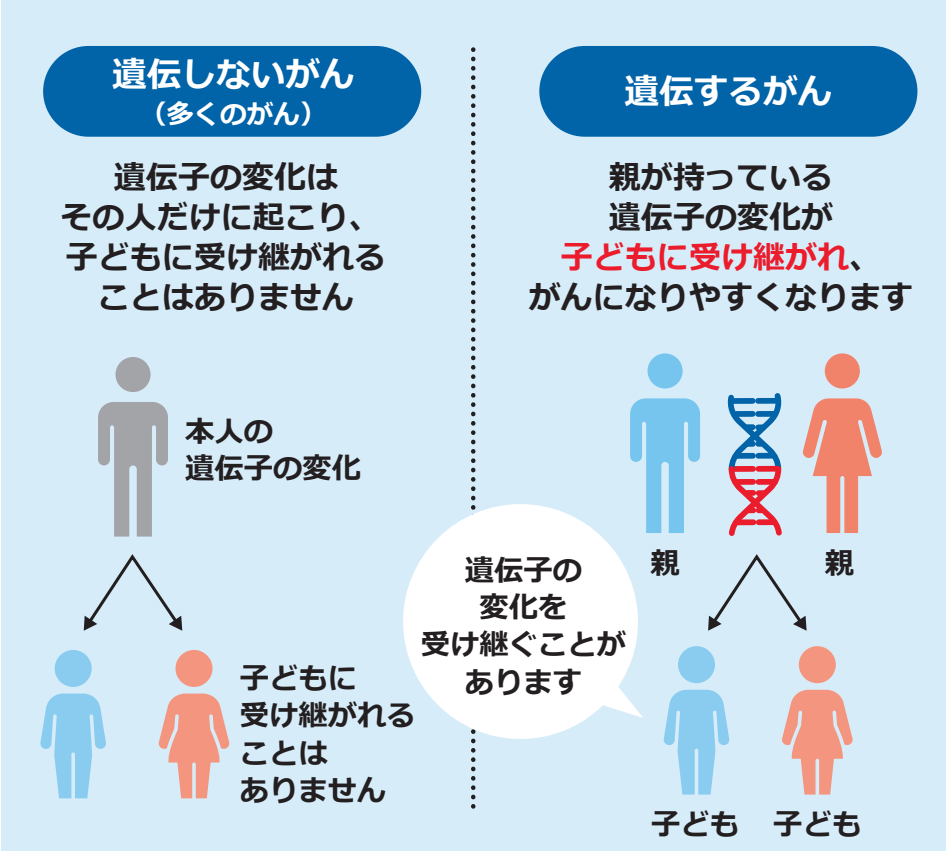
検査と結果説明が、別の月になる場合
検査の費用は検査を受けた月、結果説明の費用は説明を受けた月に、それぞれ計算します。

他の治療（抗がん剤治療や別の病気の治療）や検査を受けている場合
同じ月に受けた治療や検査は高額療養費の対象になりますので、すべて合わせて計算します。

制度の変更
2026年8月に制度が変更となり、年間上限額の制定等が導入されました。また、2027年8月に追加の変更予定です。

遺伝性のがんの可能性と診療

- 多くのがんはその人だけに起こりますが、もともとの遺伝子の変化により、遺伝性のがんを持っている方もいます。
- がん遺伝子パネル検査を行うと、10%程度の割合で遺伝性のがんの疑いが見つかることがあります。
- その場合、専門家としっかり話し合い、あなただけでなく血縁の方の診療も考えることが大事です。

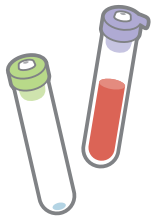


遺伝カウンセリング



検査結果の意味や、本人・血縁者への影響について専門家が説明します

確認検査（生殖細胞系列検査）



血液などを用いて遺伝性のがんとなる遺伝子の異常を確認します

本人・血縁者の診療につなげる



- 本人の適切な定期検査や予防的治療
- 血縁者への情報提供
- 血縁者の遺伝学的検査
（必要に応じて）

Guardant360 CDx
がん遺伝子パネルについて

Guardant360 CDx がん遺伝子パネルの特長

血液を用いたがん遺伝子パネル検査で、74のがんに関わる遺伝子を調べることができ、
多くの遺伝子の中から「治療に役立つ遺伝子の異常」を見つけることを目的としています。

この検査の特長



- 採血してから
  結果が出るまでの期間が
  比較的短い
- さまざまながんで
  遺伝子の異常を
  見つけることができます

遺伝子異常検出率

多くのがん種で
高い検出率が認められています



この検査でわかること（期待できること）

治療に役立つ遺伝子変化が見つかることがあります

がんの特徴を詳しく知ることで、
治療の選択肢が広がる可能性があります。

使える薬が見つかる可能性があります

がんの遺伝子の異常に合った
分子標的薬が使える可能性があります。

治験につながる可能性があります

新しい薬の治験に参加できる
可能性があります。

*遺伝子異常が検出されても、必ずしも治療薬につながるわけではありません。

Zill OA, et al. Clin Cancer Res. 2018;24(15):3528–3538. doi:10.1158/1078-0432.CCR-17-3837.

Guardant360 CDx
がん遺伝子パネルの検査タイミング

血液検査であるGuardant360 CDxには、がんの遺伝子の異常をとらえやすい適切な検査タイミングがあります。

推奨されないタイミング



がんの治療が
効いている時



がんの進行が
認められない時

推奨されるタイミング



がんの治療が
効かなくなった時



がんの進行が
認められた時

Guardant360 CDx がん遺伝子パネルの検査の流れ

- Guardant360 CDxは、外来での採血で簡便に検査ができます。
- がんの遺伝子異常が見つからなかった場合、もう一度採血・再提出をすることができる場合があります。
  再度調べることにより、がんの遺伝子の異常が見つかることがあります。

検査の流れ



遺伝子異常が見つからなかった場合



医療機関を
通じて
再度の提出を
申込みます

新たな
遺伝子異常が
見つかる可能性が
あります

GUARDANT™

ガーダントヘルスジャパン株式会社

ガーダントヘルスジャパン株式会社に関する
情報は、Webサイトよりご覧いただけます。
https://guardanthealthjapan.com/

JMKT-000553
2026年10月作成